

秩父回収資源

湿式ナゲットライン導入

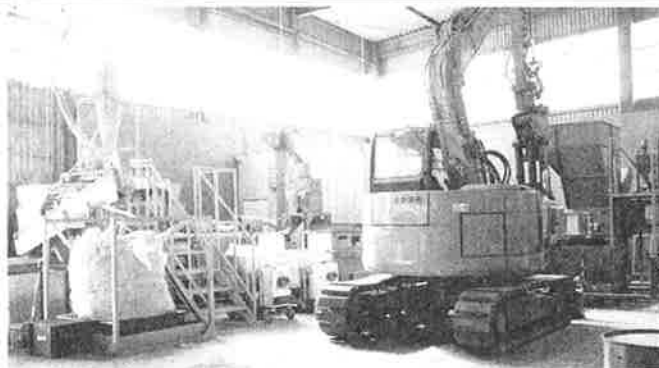
雑電線処理、国内販売へ



小澤社長

非鉄および鉄スクラップを取り扱う秩父回収資源（本社：埼玉県秩父郡皆野町、小澤通利社長）はこのほど、電線リサイクル工場に中型湿式ナゲット製造ラインを導入した。雑電線を高速処理して細ナゲットの製造が可能となり、今後は従来の乾式製造ラインによる太ナゲットとの二本柱で製造を行う。投資額は約4000万円。導入されたのは三立機械製

中型湿式ナゲット製造ライン



工業製の中型湿式ナゲット製造プラントWN12400型で、プラントに約3000万円、前処理機に800万円、その他設備・設置費用が200万円。製造能力は、雑電線を処理した場合1時間当たり約300kg。従来、通常の電線に比べて細い雑電線を国内でナゲット加工した場合、国内メーカーに販売しても採算が合わないことが多かった。このため銅分40%前後の

雑電線は、加工せずに中国向け輸出で出荷するのが一般的になってきている。今回の湿式ナゲット製造プラントの導入により、同社では雑電線も積極的にナゲット処理を行う。また銅分50～60%と比較的品位が高い雑電線は、中国向けに出荷しても銅分当たりの単価が安く、今までは在庫することが多かったが、「今後はナゲット処理し国内メーカー向けに販路を開拓したい」（小澤社長）。

ナゲット製造工程では、まず前処理機にユンボで電線を投入し、粗破砕された電線がコンベヤーで本破砕機に送り込まれる。本破砕機でさらに細かく破砕された電線は、ダクトを通じて湿式選別工程に送られ、水中で比重の違いと震動を利用して銅とプラスチックに選別。その後、細かく



細ナゲット

移している。2月の東京為替TTS平均は前月比3.99円安の1ドル94.23円と、円が下落。円安による輸入採算値の上昇が相場を一段高に押し上げた。ただ、海外相場の下落により高値在庫を抱え、理論値の上昇幅よりは買値を抑える買い手が大半。また、「メーカーも原料の上げ幅を抑えている」（直納筋）とされ、相場上伸への足かせとなっている。ただ、「4～6月期はメーカーの買い気が多し」と期待する向きもあり、来月以降はだいぶついた需給が引き締まる可能性もある。

なつた銅分（ナゲット）は熱風で乾燥され製品となる。従来の湿式選別機では、乾燥がネックとなりプラントの大型化は難しかった。また、直火で乾燥させる方法はあったが、銅が焼けてしまい品位が落ちるのが問題だった。同社が導入した湿式プラントでは、乾燥工程で遠心脱水と熱風による特許技術を利用し、雑電線を高速で高品位処理できるのがポイントだ。分離精度は98%程度と高い。製品へのミスカット混入は、皆無に近い（小澤社長）という。極細の銅線をより合

わせてある「より線」と呼ばれる電線も処理可能だ。細く見えるが、実際は銅分が70%近くある場合もあり、「より線をナゲット処理できるのは画期的なこと」（小澤社長）。最も細いナゲットは、さらさらと砂のような手触りとなる。製造された細ナゲットは、国内の伸銅製錬メーカーへの販売を検討している。同社はこれまで、主に赤ナゲット（太ナゲット）を月間30～40トン体制に移行することで、将来的には合計で100トンのナゲット製造を目指す。

特金スクラップ相場

	(キロ当たり円)	2月4週	3月1週
ニッケルしゃぶり		1045	●1105
〃 新切れ		1045	●1105
PC-2 (Ni78%)		805	●855
PB (Ni45%)		465	●495
42アロイ (Ni42%)		430	●455
36アンパー (Ni36%)		340	●360
ニクロム (NCH-1)		810	●855
パイメタル (Ni30%)		310	●330
インコネル (600)		785	●830
モネル (405)		590	●630
キューロ・ニッケル (Ni30%)		390	●410
コパール		430	●460
ステライト (Co50%)		230	●280
モリブデン新切れ (一般品)		740	●800
ハステロイ (A)		960	●1000
タンクステン新切れ (一般品)		2350	2350
ハイス (SKH-9)		180	●195
耐熱鋼 (SCH-13)		115	●120
〃 (SCH-21)		105	●110
純チタン新切れ (一般品)		165	165
チタン合金 (6Al-4V)		85	85
雑チタンくず		55	55
(都内問屋持ち込み価格、現金、N=ノミナル)			

金 ニッケル系が続伸 海外反落で上値は重い

特金スクラップ相場はニッケル系が続伸。しゃぶり、新切れなどウワ物は為替の円安ドル高と海外相場高を映し、キロ60円高の1105円となった。コバルト系とモリブデン系も上昇。タンクステン系とチタン系は横ばいとなった。ニッケル系スクラップの指標となるロンドン金属取引所 (LME) のニッケル現物セツルメント (前場売値) は、2月の平均がトン1万7733.8ポンド。前月の1万7464.8ポンドから約1.5%切り上がった。ただ、海外相場は先月下旬に急反落。足元は昨年11月以来となる1万6000ポンドで推

3月第1週のアルミ原料相場はベースと、大幅に下値を切り下げた。市中では、需給タイトが顕著なベースと、大幅に下値を切った。輸入塊の入着価格と同値圏に引き上がった。そろそろベースが続伸

アルミ・スクラップ動向

126.5ポンド安の1928ポンド。新塊輸入採算値は同キロ15円品種は、ウワ物の一部で高値修正が行われたが、おおむね据え置き。玉を確保するに足元の価格を維持せざるを得ない。スソ物は在庫薄が深刻（二次合金メーカー）。